

国内最古のディーゼル機関車

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第020号
名称(型式等)	ドイツ製ディーゼル機関車
所在地	千葉県銚子市新生町2丁目10番地の1
設立(製造)年	大正15(1926)年

選定理由

日本に現存する最古のディーゼル機関車で、大正末期に輸入され、昭和39(1964)年までヤマサ醤油工場で使用されていました。ディーゼル機関が黎明(れいめい)期の頃にドイツより多数の車両が輸入されましたが、現存するのはこの1台のみです。

ヤマサ醤油株式会社では、昭和30年代になると醤油製品の出荷が増加し、今までの専用線や銚子電鉄の路線だけでは間に合わなくなりました。そこで、昭和31(1956)年に新しい専用線を銚子駅から工場まで敷設しました。専用線は約1キロあり、最初は人力で貨車を押していましたが、登り勾配(こうばい)のため、限界があり、ディーゼル機関車の導入となりました。銚子に来たのは昭和32年ですが、その以前は千葉市内の工場で使用されていたようです。

ディーゼル機関車黎明期の車両であるため、その構造やエンジンの始動方法には独特のものがありません。エンジンは横置き1気筒エンジンでピストンが一つしかない原始的エンジンでした。回転が安定しないためエンジンの両側には大きなフライホイール(はずみ車)を取り付けて回転を安定させました。また、電装品がないため、エンジンの始動は現在の自動車のようなセルモーターでピストンを動かして圧縮を行い点火するのではなく、人が直接シリンダに火種を投げ入れ点火し、エンジンを動かしました。

考案者の名をとって「オットー」とよばれ、鉄道ファンに親しまれています。

製造会社 ドイツ社・オーベルウーゼル社

考案者 ニコラス・アウグスト・オットー

軌間 1067mm

製造番号 6974

自重 7t

エンジン 20馬力



写真1:ディーゼル機関車



写真2:プレート

協力:ヤマサ醤油株式会社